

学校法人東京聖徳学園
聖徳大学短期大学部
機関別評価結果

平成 25 年 3 月 14 日
一般財団法人短期大学基準協会

聖徳大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 東京聖徳学園
理事長	川並 弘純
学 長	川並 弘純
A L O	岡田 耕一
開設年月日	昭和 40 年 4 月 1 日
所在地	千葉県松戸市岩瀬 550

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
保育科第一部		350
保育科第二部		50
総合文化学科		140
	合計	540

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	服飾文化専攻	10
専攻科	介護福祉専攻	25
専攻科	医療保育専攻	20
専攻科	保育専攻(夜間主コース)	15
専攻科	保育専攻(昼間主コース)	30
	合計	100

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

学科	保育科	500
専攻科	保育専攻	50

機関別評価結果

聖徳大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 25 年 3 月 14 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 23 年 7 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

聖徳太子の「和」の精神を建学の理念として明確に掲げ、今日に至るまで「人間教育」「女性教育」という大きな柱を基礎として「和」の精神の実現に努めている。また、聖徳学園建学記念館において、昭和 8 年に「和」を建学の理念として聖徳家政学院、新井宿幼稚園を開いてから、今日に至るまでの学園の発展を実物資料や映像資料によって紹介しており、学生や教職員はいつでも建学の精神に触れることができる。教育の質を保証するために、平成 15 年に ISO（国際標準化機構）の品質マネジメントシステムである ISO 9001 の認証を取得した。それによって「教育の質マニュアル」を策定し、日常的に自己点検・評価を行うことを義務付け、自己点検・評価活動には、全教職員が関与している。

教育目標を達成するために、全学共通科目では、建学の精神を具現化し、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人格形成の基本を形成する「聖徳教育」を中心に据えてカリキュラムを編成している。「授業の質（FD）の PDCA サイクル」に基づき、参観教員の専門分野を限定しない「一般公開授業」と同一専門分野の教員間で行う「研究グループ授業」を実施し、教員には少なくとも年 2 回の授業参観を義務付けている。また、保護者会を地域ごとに年間 11 回開催し、担任は全学生の面談資料をあらかじめ作成し、準備をしている。全学生の 4 割程度の保護者が参加しており、保護者と短期大学側との密接なコミュニケーションが図られている。保育科、総合文化学科ともに、入学前準備教育（学習）を実施している。

学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用し、また地球環境保全に取り組んでいる。特に教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設設備が充実しており、併設する四年制大学と共通利用を図り、有効に活用されている。例えば、ピアノレッスン室、ピアノ練習室自習スペース及び「こども図書館」、「聖徳博物館」等を含む「川並弘昭記念図書館」は質、量ともに充実しており、学生の学習成果獲得に寄与している。また、事務局の情報システム課及び総合メディア室は、情報処理の教育に関すること、学内

ネットワークの利用教育に関すること等の支援を担っている。学生及び教員の情報活用能力の向上を目指して、情報処理に関する研修会、ICT の活用教育にかかわる実践事例や教材開発等の研究、授業研究の交流を推進している。また、コンピュータ演習室などの特別教室を整備し、専門教育科目における特別なパソコン機器及びソフトウェアの充実を図っている。過去 3 年間の教育研究活動のキャッシュフローはプラスを継続し、正常な経営状態にある。消費収支の支出超過の状況について、その理由を把握し改善策を講じている。

質の高い教育の仕組みを構築するため、ISO の品質マネジメントシステム（ISO 9001）の規格を適用した独自のシステム「聖徳リアライズシステム」（「教育の質マネジメントシステム」）を導入している。それに基づき、中期計画「5年後のビジョン」が策定され、当年度実行計画の作成・実行へと続いている。そこには、理事長の見直しによってフィードバックが行われ、理事長及び理事会のリーダーシップとガバナンスが発揮されている。また、学長のリーダーシップの下、ISO 9001 の「教育の質マニュアル」に基づき、授業の質管理及び FD 活動の PDCA サイクルが実行され機能している。監事及び評議員会は適切に機能している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

（1）特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準 I 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神「和」を具現化した全学共通科目「聖徳教育」を設け、学生だけでなく指導する教員も、聖徳教育によって建学の精神を共有することができている。また、毎年 4 月 27 日に学園の全教職員が出席する創立記念日式典を開催し、学長の講話や特別講師による講演により、全員が建学の精神「和」を確認し合う機会となっている。

[テーマ B 教育の効果]

- ISO 9001 の規格を適用した独自のガイドライン「教育の質マニュアル」に従った、学習成果を焦点とする査定の手法を示し、その実行に努めている。教員は、このマニュアルにのっとり学習成果を測定しており、教育の質保証の担保に努めている。各教員の学習成果測定結果は、学科会議で定期的に検討・点検している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 厳格な学習成果の査定が実施されていることに加えて、保育科においては実習園側が提出した評価票に基づく教員と学生との面談指導などが実施されており、「質の高い保育者」育成に向けての支援体制が取られている。さらに、「実習研究協議会」を開催し、評価を聴取している。

[テーマ B 学生支援]

- 食堂などのキャンパスアメニティ施設も随所にゆとりを持って配置されている。特に自宅や親族宅から通学できない学生全員に対する学生寮への入寮制度と四つの学生寮完備は、全国からの学生確保と保護者への安心提供に寄与している。また、保護者会は地域ごとに年間 11 回開催し、全学生の 4 割程度の保護者が参加している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 心身の健康管理を掌る組織として保健センターが置かれ、医師、看護師、保健師、カウンセラーが常駐しており、学科構成とも密接に関係して学生及び教職員の心身の健康管理を行っている。

[テーマ B 物的資源]

- 教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設設備が整備され、有効に活用されている。例えば、ピアノレッスン室、ピアノ練習室自習スペース及び「こども図書館」、「聖徳博物館」等を含む川並弘昭記念図書館は質、量ともに充実しており、学生の学習成果獲得に寄与している。

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 事務局の情報システム課及び総合メディア室は、情報処理の教育に関すること、学内ネットワークの利用教育に関すること等の支援を担い、学生及び教員の情報活用能力の向上を目指して、情報処理に関する研修会、ICT の活用教育にかかわる実践事例や教材開発等の研究、授業研究の交流を推進するとともに、コンピュータ演習室などの特別教室を整備し、専門教育科目における特別なパソコン機器及びソフトウェアの充実を図っている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ A 理事長のリーダーシップ]

- 理事長が短期大学の学長を兼任することのメリットが生かされ、教学の経営方針が徹底されており、理事長のリーダーシップの下、学校法人の管理運営体制と教学運営体制との連携が取られている。また、教授会・各種委員会をはじめ、副学長・学長補佐・学科長・学科長補佐等の役職教員が連携しており、学長を支える教学体制がしっかりと構築されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 高い質保証を目指している当該短期大学では、2年間で学生に求められる学習成果は多く、更なる学生への支援対策が望まれる。

[テーマ B 学生支援]

- 総合文化学科においては、雇用情勢の悪化という状況の中で、就職率を上げるための対策をキャリア支援室との連携の下に実施しているが、解決に至っていない。総合文化学科が抱える就職率を上げるための対応について十分検討することが望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 学校法人としては余裕資金に比べて負債が多いので、財務改善計画に従い着実に実行することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

聖徳太子の「和」の精神を建学の理念として明確に掲げ、今日に至るまで「人間教育」「女性教育」という大きな柱を基礎として「和」の精神の実現に努めている。「和」の精神は学生便覧に分かりやすく示されており、学生、保護者、教職員に共有されている。さらに、ウェブサイトや総合案内、オープンキャンパス等において学外へも積極的に周知を図っている。聖徳学園建学記念館において、昭和8年に「和」を建学の理念として聖徳家政学院、新井宿幼稚園の開学から、今日に至るまでの学園の発展を実物資料や映像資料によって紹介している。学生や教職員はいつでも建学の精神に触れることができる。

「聖徳教育」という科目を含め、建学の精神「和」を学べる授業が、全学共通科目に配置されている。

教育目的・目標については、学則において保育科、総合文化学科共通の教育目的を定め、それに基づき各学科それぞれの人材育成に必要な学習成果を明確に示している。専攻科の目的も示されている。また、毎月開催する学科会議で折にふれて学科及び専攻科のカリキュラムや教育内容が教育目的・目標に十分に則したものとなっているか点検している。

教育の効果については、ISO 9001の「教育の質マニュアル」に基づき、すべての科で共通する学習成果を量的・質的データとして測定する仕組みを持ち、教育の質を保証するシステムが機能している。各教員の学習成果の測定結果は、学科会議で定期的に検討・点検している。

自己点検・評価については、学則に基づき、「自己点検・評価委員会規程」を定め、学科の教員と事務職員で構成する自己点検・評価委員会を組織している。平成15年に取得した品質マネジメントシステム（ISO 9001）の「教育の質マニュアル」に基づいて、日常的に自己点検・評価を行うことを義務付け、自己点検・評価活動には、全教職員が関与している。平成18年よりFD活動に絞った研究紀要として「聖徳の教え育む技法」を刊行し、教えるプロとしての教員の資質の向上や指導のスキルアップを図ることを促している。そして、自己点検・評価の成果をシラバスの改定や担任指導、また、FD活動に活用している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

全学共通科目では、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人格形成の基本を形成する「聖徳教育」を中心に据えてカリキュラムを編成している。保育科において、2年間で99単位を必要とすることは学生にとって大きな負担であると認識しているが、学科としては「質の高い保育者」養成を目指している。

総合文化学科においては、雇用情勢の悪化という状況の中で、就職率を上げるための対策を、キャリア支援室との連携の下に実施している。また、「ブランチャ」(専門分野)の問題点を踏まえ、未来像について検討しているところである。

学生支援全般では、「授業の質(FD)のPDCAサイクル」に基づき、参観教員の専門分野を限定しない「一般公開授業」と同一専門分野の教員間で行う「研究グループ授業」を実施している。教員には少なくとも年2回の授業参観を義務付けている。保護者会を地域ごとに年間11回開催し、担任は全学生の面談資料を準備している。全学生の4割程度の保護者が参加しており、保護者と短期大学側との密接なコミュニケーションが図られている。入学前教育として全入学者に課題が与えられ、特にAO入試合格者の課題提出率は100パーセントを達成している。保育科では、実技、情操教育のピアノ指導に力を入れており、不合格者や成績の低い学生に対して、各レベルに応じた「特訓」、「補習授業」、「相談室」、などを開催し、落伍者が出ないようにきめ細かな指導が徹底されている。実習を終了した学生に対する保育所からの「評価票」を開示し、実習先の指導者からのコメントなどを学生たちが知ることによって、更なる自己の向上を目指すように指導している。食堂などのキャンパスアメニティ施設も、随所にゆとりを持って配置されており、良好な環境が提供されている。四つの学生寮完備は、全国からの学生確保と保護者への安心提供に寄与している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

各年度には専任教員を対象とした「実績振り返り制度」等を活用し、教員の教育上の指導能力の向上を図っている。また、学習成果を向上させるための事務組織を適切に整備している。日常的な業務の見直しや事務処理の改善は、様々な業務環境の変化により見直される個別計画書により適切に行われている。

人事管理は諸規程に従って適切に行われている。心身の健康管理を掌る組織として保健センターが置かれ、医師、看護師、保健師、カウンセラーが常駐しており、学生及び教職員の心身の健康管理を行うなど、健康管理にも留意している。

学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用し、また地球環境保全に取り組んでいる。例えば、ピアノレッスン室、ピアノ練習室自習スペース、「こども図書館」、「聖徳博物館」、「川並弘昭記念図書館」は質、量ともに充実しており、学生の学習成果獲得に寄与している。また、事務局の情報システム課及び総合メディア室は、情報処理の教育に関すること、学内ネットワークの利用教育に関すること等の支援を担っている。学生及び教員の情報活用能力の向上を目指して、情報処理に関する研修会、ICTの活用教育にかかわる

実践事例や教材開発等の研究、授業研究の交流を推進している。コンピュータ演習室などの特別教室を整備し、専門教育科目における特別なパソコン機器及びソフトウェアの充実を図っている。過去 3 年間の教育研究活動のキャッシュフローはプラスを継続し、正常な経営状態にある。資金収支及び消費収支は、過去 3 年間にわたり均衡しているとはいえず、負債が多い状態が続いているが、消費収支の支出超過の状況について、その理由を把握し改善策を講じている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

質の高い教育の仕組みを構築するため、ISO の品質マネジメントシステム (ISO 9001) の規格を適用した独自のシステム「聖徳リアライズシステム」(「教育の質マネジメントシステム」)を導入している。それに基づき、中期計画「5年後のビジョン」が策定され、当年度実行計画の作成・実行へと続いている。そこには、理事長の見直しによってフィードバックが行われ、理事長及び理事会のリーダーシップとガバナンスが発揮されている。また、学長のリーダーシップの下、ISO 9001 の「教育の質マニュアル」に基づき、授業の質管理及び FD 活動の PDCA サイクルが実行され機能している。

これら学習成果を焦点とした短期大学教育の向上・充実の具体的方策については、理事長が学長であることにより、経営組織と教学組織との連携が取れ、教育に関する諸事が積極的に推進されている。

経営に関することについては、入学定員を充足していない学科(特に総合文化学科)が存在するが、教育課程の見直しにより改善を図ることが示され、具体的な経営改革の方向性が協議されている。また、「施設・設備の充実」、「環境対応型キャンパスの整備」、「奨学金制度の新設」を念頭に置いた学園創立 75 周年記念事業募金が行われており、外部資金を導入することが随時試みられている。

情報公開については、積極的に財務情報・事業計画等が公開され、社会に対して説明責任を果たすと同時に、関係者をはじめ地域社会の理解と支援を得るよう努力されている。

また、ガバナンスについては、監事及び評議員会が、理事長・学長のリーダーシップが発揮されていることを確認しており、適切に機能している。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

全学共通科目に多彩な領域と礼節を学び、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人格形成の基本を育成するカリキュラムとして、「聖徳教育（4 単位）」「教養科目と外国語（8 単位）」「健康教育（2 単位）」「情報活用（1 単位）」が用意されている。

特に「聖徳教育」は「聖徳教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」があり、学生の豊かなキャリア形成の一環として、「和」の精神に基づく人間形成（豊かな教養、情操、基礎学力、基礎技能、コミュニケーション能力等）を行っている。「聖徳教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はその内容に応じて、学長、学科長、担任教員、学科教員、職員、医師、旅行会社等による実施体制が整えられている。

また、それぞれにふさわしい測定・評価基準を定め、実施している。毎年 3 月に、卒業予定者に「卒業生の意識調査（アンケート）」を実施し、学生の満足度を調査し、その結果を次年度の聖徳教育の計画作成の参考にしている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 聖徳教育では、学生の豊かなキャリア形成の一環として、「和」の精神に基づく人間形成（豊かな教養、情操、基礎学力、基礎技能、コミュニケーション能力等）を行っている。「聖徳教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はその内容に応じて、学長、学科長、担任教員、学科教員、職員、医師、旅行会社等がかかわる実施体制が整えられており、実施方法も明確になっている。

職業教育の取り組みについて

総評

「聖徳大学・聖徳大学短期大学部における『キャリア教育』の充実に向けて」（以下「キャリア教育の充実に向けて」）を定めて、学科ごとに充実した職業教育に取り組んでいる。

保育科においては、「キャリア教育の充実に向けて」に掲げられた五つの力を育成するために、教育課程内の教育、教育課程外の学生指導を有機的に組織して職業教育を実施している。総合文化学科では、体系的職業教育体系「実学・実践による女性のコンピテンシー育成」の推進に当たって「キャリア教育推進委員会」が全体を総括している。

職業教育と後期中等教育との円滑な接続に関しては、推薦入試等で保育科に入学を予定している生徒に課している「入学前の学習について」があり、総合文化学科では、キャリア形成の意識を高め、基礎的学力を養成するために、入学後に役立つと思われる学習課題を課し、入学後の勉学に備えさせている。

職業教育の内容と実施体制に関して、保育科の「キャリア総合演習」は、卒業必修として保育科の全教員が担当している。総合文化学科では、「実学的教育カリキュラム」によって仕事とその実態への理解を育み、「実践的教育カリキュラム」によって仕事の遂行、対人活動やチームワークなどに関する事項の理解を進めるなど、体制が確立している。

学び直し（リカレント）の場として、保育科「SEITOKU 夏期保育大学」は、全国の保育者に門戸を開いたものである。その他、公開講座「聖徳大学オープンアカデミー（SOA）」を用意している。

保育科、総合文化学科とも実務に精通した教員を積極的に採用することや FD 活動により、職業教育を担う教員の資質向上に努めている。

保育科においては、異学年交流委員会の評価部会による評価が報告され、それを基に職業教育の取り組みの改善に努めている。総合文化学科における職業教育の効果は「キャリア教育推進委員会」の「進路総括部会」を中心に、提携先の産業界及び高等学校からの評価も得て、改善に取り組んでいる。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 「キャリア総合演習」を保育科の職業教育の中核的な科目に位置付け 2 年間の必修科目としている。この「キャリア総合演習」は、1 年生と 2 年生が少人数の共同コミュニティを形成しながら、学生の主体的な学びを推進する教育プログラムである。学生は、コミュニティごとに学習テーマ、活動内容を決定し、コミュニティの仲間と協力しながら、テーマに沿って 1 年間継続的に協働的な学習に取り組む。その過程で多様な人間関係の中、自ら考え、行動していくことにより、課題発見力・行動力・傾聴力・自己表現力などを向上させることを目指している。
- 総合文化学科では、若者が卒業後、円滑に職業生活に入ることができない社会に未来はないとの考えに基づく職業教育を大学教育の根幹ととらえて取り組んでいる。平成 18 年度には、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム＝現代 GP」の採択を受けて、人間力を養成するユニット別キャリア教育の取り組みを目的としたキャリア教育をスタートさせた。平成 21 年度からは、この取り組みを更に発展させて、就業力の源を「コンピテンシー」（Competency 就業に対する適格性を備え、持続的に就業するために必要な能力＝仕事力）ととらえ、その能力を育成するための実学的・実践的教育体系「実学・実践による女性のコンピテンシー育成」を構築

した。この取り組みも文部科学省の「就業力育成支援事業」の採択を受けて事業推進に邁進している。

地域貢献の取り組みについて

総評

地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等については、学則に基づいて展開しており、その中核となっているのが、「聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）」である。「聖徳大学オープン・アカデミー規程」において、その事業内容として（1）公開講座、英会話講座、課外講座、（2）SEITOKU 夏期保育大学、各種セミナー等、（3）図書館司書、司書補講習、その他各種検定試験、（4）その他 SOA 事業に関することと定めている。SOA 公開講座については、平成 23 年度までに通算 58 期開講し、延べで 6 万 8500 人以上が受講している。SOA 公開講座の他には、教員免許更新講習、夏期保育大学（保育関係者を対象とする公開講座）、免許法認定公開講座、司書・司書補講習、介護技術講習を実施している。

地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動については、三つの活動を実施している。第一に、出前授業。高校生のキャリアデザイン形成や大学理解に役立っている。第二に、他団体の研修への協力。保育科は、四年制大学の児童学部と共に松戸市の公立保育所職員の職員研修に講師として毎年協力している。第三に、授業カリキュラムの中に地域貢献に取り組む科目を配置している。総合文化学科は「産学連携による実践的教育カリキュラム」を用意し、地域の産業界との連携に基づいて行う実践的教育として実施されている。

教職員及び学生によるボランティア活動等を通じた地域貢献としては、保育科教員が東日本大震災被災地の子供と保育者への支援を行っている。保育科教員有志により、被災地にある幼稚園や保育所の子供たちに楽しい保育活動の支援を行い、併せて保育者への保育支援を行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 公開講座「聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）」を開講し、平成 23 年度までに通算 58 期開講し、延べで 6 万 8500 人以上が受講している。ほかには、教員免許更新講習、夏期保育大学（保育関係者を対象とする公開講座）、免許法認定公開講座、司書・司書補講習、介護技術講習を実施している。
- 総合文化学科では、地域貢献の取り組みを授業カリキュラムの中に位置付けて積極的に取り組んでいる。地域貢献の取り組みとして、授業カリキュラム「産学連携による実践的教育カリキュラム」を配置している。